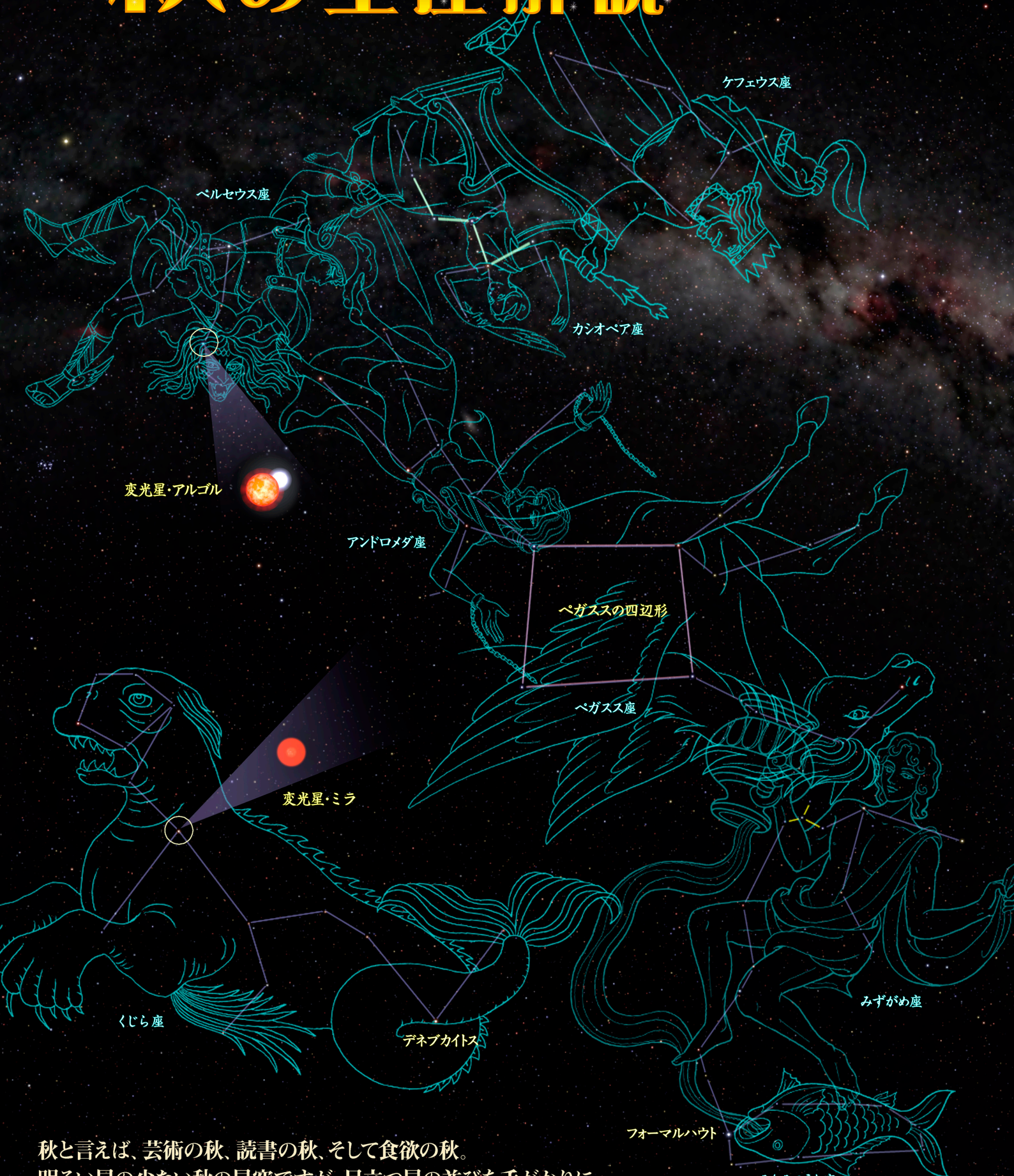


あき

せいざかいせつ

秋の星座解説



秋と言えば、芸術の秋、読書の秋、そして食欲の秋。
明るい星の少ない秋の星空ですが、目立つ星の並びを手がかりに、
丁寧にたどっていくと、案外簡単に星座を見つけることができます。

あき せいざかいせつ 秋の星座解説

(約 18分43秒)

秋と言えば、芸術の秋、読書の秋、そして食欲の秋。明るい星の少ない秋の星空ですが、目立つ星の並びを手がかりに、丁寧にたどっていくと、案外簡単に星座を見つけることが出来ます。

ペガサス座 ~ペガサスの四辺形~ 秋の星座の案内役、ペガサス座の目印は、頭の上、高いところにある同じくらの明るさの星四つが作る四角形、「ペガサスの四辺形」。ペガサス座は、この四辺形を胴体に、右下の星から首を伸ばして、逆さまになっています。ペガサスは背中に羽のある天馬です。いろいろな神話に登場し、活躍した話が伝えられています。別名「秋の四辺形」とも呼ばれていて、秋の星座探しの出発点として、とても良い目印です。



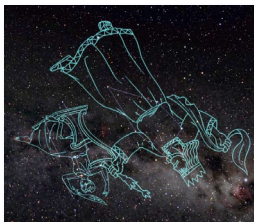
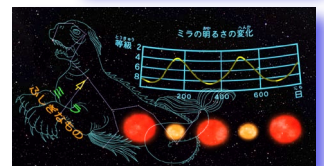
みなみのうお座 ~フォーマルハウト~ 四辺形の右側の辺をずうっと下の方にのばしてみると、ぼつんと輝く明るい星に行き当たります。みなみのうお座の「フォーマルハウト」。秋の星空でたったひとつの一等星です。フォーマルハウトから右の方に、葉っぱのような形に暗い星をつなげていくと、みなみのうお座の姿が見えてきます。ペガサス座同様、ひっくり返っていますが、どうしてかというおなかがダボダボだから…?



みずがめ座 四辺形のちょっと右下に、三ツ矢の形の星の並びを探して、ここに水瓶をおいて少年の姿を描くと…。みずがめ座になります。神話によると、神々の王ゼウスにさらわれて、お酒をお酌する役目を授かった美少年ガニメデスの姿だとか。そそっかしい性格らしく、お酒の入ったかめを逆さに持っていますね。そのとぼっちりを受けているのが、みなみのうお座。「これはもったいない!」とばかりに口で受け止めたものの、おなかがダボダボになるまで飲んで、すっかり酔っぱらってひっくり返っちゃった、というわけです。



くじら座 ~デネブカイトス・変光星ミラ~ 四辺形の左の辺を下の方にたどってぶつかった星が、「デネブカイトス」、「くじらのしっぽ」という意味の名前。ここには、その名の通り、大きなくじらの星座があります。でも、私たちが知っている鯨とは違う姿をしていますね。それもそのはず、このくじら座は、鯨といっても、古代エチオピアの海岸に現れては大暴れしたという化け鯨の姿なんです。くじら座の心臓のあたりにあるのが、「ミラ・ふしぎなもの」という意味の名前で呼ばれる星。およそ 330 日かけて、2 等星から 10 等星まで、ゆっくり明るさを変えていく「変光星」なのです。ミラが明るさを変えるのは、星が脈を打つように大きくなったり、小さくなったりするためだ、とわかっています。

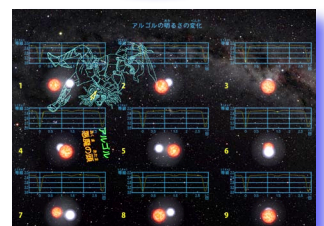


カシオペア座・ケフェウス座 四辺形の左側の辺を北の方にのばしていくと、アルファベットの M の形に並んだ五つの星が見つかります。これはカシオペア座の目印。カシオペアというのは古代エチオピアの王妃様の名前。両手を高く掲げていすに座った姿です。自分の娘の美しさを自慢するあまり、海の神ポセイドンの娘たちよりもかわいい、なんて口をすべらしたため、ポセイドンが怒って、化け鯨を差し向けました。今度は、四辺形の右側の辺を北の方にのばしていくと、ゆがんだ五角形の星の並びが見つかります。これはケフェウス座の目印。ケフェウスはカシオペアの夫で、エチオピアの王様。神のお告げによって、愛する娘アンドロメダを「いけにえ」にしなければならなかった、苦悩の王様です。

アンドロメダ座・ペルセウス座 四辺形の左上の星から、てんてんと並んだ星にあるのが、「アンドロメダ座」。古代エチオピアの王女様の星座です。アンドロメダ座も両腕を上げ、くさりでつながれている格好をしています。それは大暴れする化け鯨を鎮めるために、「いけにえ」にされたときの姿。でも大丈夫、今まさにアンドロメダが化け鯨の餌食になろうか、というそのとき、空飛ぶ天馬ペガサスにまたがり、大きく剣を振り上げて、王子ペルセウスが現れ、化け鯨を退治しました。そして、アンドロメダの隣で「ペルセウス座」になりました。化け鯨は剣で退治されたのかというと、そうではありません。ペルセウスの剣を持つ手と反対の手に持っているのが、退治したばかりの怪物メドゥーサの首。見た者すべてが、石になってしまうという恐ろしい化け物です。そのメドゥーサの首を突きつけられたため、さすがの化け鯨もメドゥーサを見て、石になり海に沈んでしまったというわけです。



ペルセウス座の変光星 ~アルゴル~ この怪物メドゥーサのところには、「アルゴル~悪魔の頭」という意味のとても不気味な星があります。三日に一度くらい、明るさが3分の1くらいに暗くなってしまうのです。そう、アルゴルもくじら座のミラ同様、変光星の仲間。ただし、変光の原因はまったく違います。アルゴルの場合は、明るい星の周りを暗い星が回る連星、と呼ばれる星。普段は、二つの星の明るさが合わさった明るさで見えていますが、暗い星が明るい星の前に来ると、ちょうど日食が起こったみたいに、明るい星からの光を遮ってしまうので、暗くなったように見えるんです。もちろん、暗い星が後ろへ行ったときにも、ちょっとだけ暗くなります。だから、アルゴルの変光は、ミラのようになだらかではなくて、急激に起こります。ちょうど、悪魔が瞬きするみたいに…。



語り: 千葉真理 脚本・説明図: 高部哲也 CG: NOBO 星座イラスト: 塚田洋子 編集・説明 CG: 福留政彦